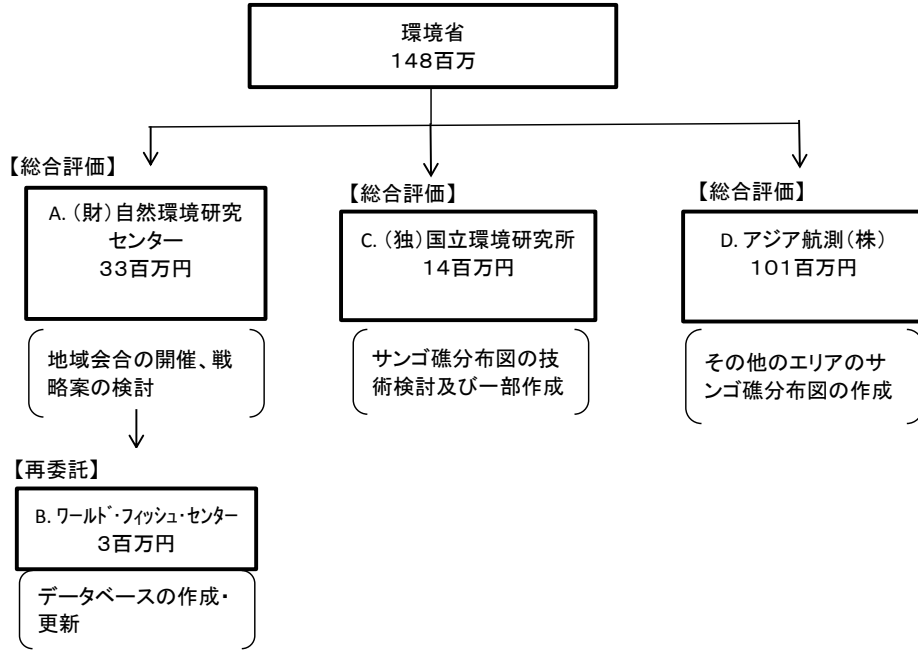


行政事業レビューシート (環境省)

予算事業名	アジア太平洋地域生物多様性保全推進費		事業開始年度	昭和57年度		作成責任者
担当部局	自然環境局		担当課室	自然環境計画課 野生生物課 国立公園課		課長 星野一昭 課長 塚本瑞天 課長 上杉哲郎
会計区分	一般会計		上位政策	生物多様性の保全と自然との共生の推進		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計 画、通知等	海洋基本計画、21世紀環境立国戦略、生物多様性国家戦略2010		
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	アジア太平洋地域において、国際的なサンゴ礁の保全の推進、湿地及びそれを利用する主要な渡り鳥の渡来状況や生息地の状況把握、地域の実情に合った保全管理手法及び普及啓発手法の確立、我が国と他国との間を渡る渡り鳥の保全、生物多様性条約に基づく保護地域作業計画の推進等を図るため、関係する国、機関、地域住民等と協力して事業を実施する。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	①衛星写真を活用したアジア・オセアニア地域のサンゴ礁分布図の作成及びサンゴ礁保護区データベースの改良、重要サンゴ礁ネットワーク戦略策定のための国際会議の開催を行う。②ラムサール条約湿地の保全管理状況をモニタリングするとともに、ラムサール条約第10回締約国会議(平成20年10月開催)において採択された「水田決議」の履行促進のために事例収集等を行う。アジア地域の渡り経路全体の渡り性水鳥の個体数変化を把握するため我が国の湿地におけるガンカモ類のモニタリングを行う。③米国、豪州、中国、ロシア、韓国との間で二国間渡り鳥条約・協定等会議を開催するとともに、日口を渡るオオワシ、日米を渡るアホウドリ、日中間を渡るズグロカモメ等の共同事業を行う。④アジア各国の保護地域について保護地域データ収集の統一基準を確立する。また、その基準を元に保護地域に関する情報を収集・整理し、各保護地域の管理状況に関する情報共有を図り、各国の保護地域間、保護地域と援助国、被援助国の間の適切なパートナーシップ構築を推進する。					
実施状況	平成21年度は、以下の事業を実施した。 ①我が国を含むアジア・オセアニア地域のサンゴ礁分布図を整備し、サンゴ礁保護区データベースの改良・更新を行った。また、重要サンゴ礁ネットワーク戦略について議論するためのICRI東アジア地域会合を開催した。 ②ラムサール条約湿地のワイズユースの推進やアジア地域における条約湿地の新規登録支援等を実施し、東アジア・オーストラリア地域を渡る渡り性水鳥とその生息地の保全を行う国際的枠組である、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップを推進するため国内外で実施される活動を支援するとともに、我が国の湿地におけるガンカモ類のモニタリングを行った。 ③日米共同によるアホウドリ幼鳥の追跡調査、日口共同によるオオワシの越冬状況等調査、日中共同によるズグロカモメの越冬状況等調査等を実施した。 ④東アジアにおける保護地域パートナーシップの状況、世界の保護地域に関するデータベース事業の運用状況等について現況を把握し、既存保護地域情報システムの分析と課題の抽出を行い、今後のパートナーシップ構築に向けた全体像の検討を行った。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	67	123	269	134	
	執行額	49	113	196		
	執行率	73.1	91.9	72.9		
	総事業費(執行ベース)	49	113	196		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	事業者とは綿密な連絡を取り、随時必要な調整を行った上で、適正な執行がなされるよう確認に努めている。また、必要に応じ職員が現地出張し、事業実施に必要なアドバイスを行うとともに、事業進捗や内容の把握を行っている。成果物については報告書を精査し、当該事業の実施結果及び用途の確認を行っている。				
	見直しの余地	①アジア・オセアニア地域におけるサンゴ礁分布図は作成完了のため事業終了。今後、ICRI東アジア地域会合での議論を元に22年度には重要サンゴ礁ネットワーク戦略を策定し、サンゴ礁保全の取組の推進を図る必要がある。 ②ラムサール決議「水田決議」履行促進事業は23年度に事業終了。 ③二国間渡り鳥条約等に基づく会合での議論を元にして引き続き二国間の共同調査を実施していく必要がある。 ④保護地域は、CBD/COP7で採択された保護地域作業計画(PoWPA)に基づき、これまで国際的な取組がIUCN/世界保護地域委員会(WCPA)のもと進められてきた。本年10月開催のCOP10後の保護地域に関する取組の強化はより一層求められることとなることから、事業を早期に実施する必要がある。 今後も競争性のある調達の実施に努め効率的な執行を行うとともに、課題や目的を十分検討のうえでより効果的に事業を進めていく。				
予算監視の効率化						
補記	○予算繰越(当該年度の前年度からの繰越額)					
	19年度	20年度	21年度			
	-	0	0			
	・平成21年度補正予算事業であるアジア・オセアニア地域におけるサンゴ礁分布図作成のための予算(155百万)については、効果的な事業となるよう見直しを進めたうえで行った入札による入札残が発生した。					

○平成21年度アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出さ
 れている者につ
 いて記載する。
 使途と費目の
 双方で実情が
 分かるように
 記載)

A. (財)自然環境研究センター			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	アジア太平洋地域生物多様性保全調査費	30			
外部委託費	サンゴ礁国際データベース作成・構築費	3			
計		33	計		0
B. ワールド・フィッシュ・センター			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	サンゴ礁国際データベース作成・構築費	3			
計		3	計		0
C. (独)国立環境研究所			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	アジア太平洋地域生物多様性保全調査費	14			
計		14	計		0
D. アジア航測(株)			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	アジア・オセアニア地域におけるサンゴ礁保全に向けた情報基盤整備費	101			
計		101	計		0

○平成21年度アジア地域における生物多様性保全推進費

環境省
28百万円
執行管理

一般事務費
2百万円

アジア地域におけるラムサール条約湿地の保全と賢明な利用や渡り鳥保護を進めるため、ラムサール条約のワイズユースの推進やアジア地域の新規登録支援等を実施するとともに、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップの国内外における実施を支援

【総合評価入札】

【総合評価入札】

【一般競争入札】

【総合評価入札】

【一般競争入札】

NPO法人
日本国際湿地
保全連合
3百万円

(株)ノルド
2百万円

NPO法人
バードライフアジア
6百万円

NPO法人
バードライフアジア
13百万円

(株)緑生研究所
2百万円

ラムサール条約の
普及啓発等

ラムサール条約
湿地湿地ワイズ
ユース推進

東南アジアの
湿地保全支援

東アジア・オース
トラリア地域フライ
ウェイ・パートナー

ガンカモ一斉調査

条約決議文の翻
訳、登録湿地の
保全等状況調査

ワイズユースに
関するワーク
ショップ等の実施

東南アジア諸国
における新規の
ラムサール条約

東アジア・オース
トラリア地域フラ
イウェイ・パート
ナーシップの国内
ネットワーク支援、
国際会議開催支
援等の実施

全国のガンカモ分
布データの解析

資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位:百万円)

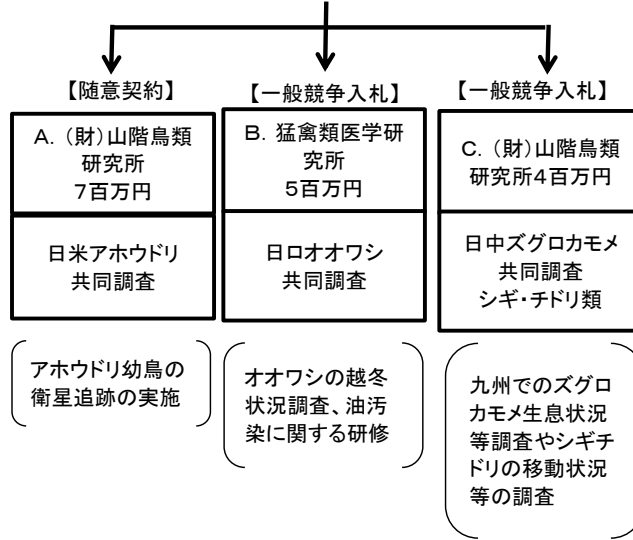
費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごと
 に最大の金額が支出さ
 れている者について記載す
 る。使途と費目の双方で実情
 が分かるように記載)

A.NPO法人国際湿地保全連合			E.(株)緑生研究所		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	ラムサール条約の普及啓発等	3	雑役務費	ガンカモー斉調査	2
計		3	計		2
B.(株)ノルド			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	ラムサール条約湿地湿地ワイズユース推進	2			
計		2	計		0
C.NPO法人バードライフアジア			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	東南アジアの湿地保全支援	6			
計		6	計		0
D.NPO法人バードライフアジア			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップの推進	13			
計		13	計		0

○平成21年度アジア地域渡り鳥等国際共同研究推進費

環境省
16百万円
執行管理

二国間渡り鳥条約等に基づく会議結果や相手国との意見交換に基づき日米共同によるアホウドリ幼鳥の追跡調査、日ロ共同によるオオワシの越冬状況等調査、日中共同によるズグロカモメの越冬状況等調査等を企画した。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A.(財)山階鳥類研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	日米アホウドリ共同調査	7			
計		7	計		0
B. 猛禽類医学研究所			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	日ロオオワシ共同調査	5			
計		5	計		0
C.(財)山階鳥類研究所			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	日中ズグロカモメ共同調査、シギ・チドリ類追跡調査	4			
計		4	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

○平成21年度アジア保護地域パートナーシップ構築事業

環境省
4.1百万円

アジア各国の保護地域について、地域住民によって持続的に管理されている地域や既指定の保護地域の管理状況も含めた統一的な基準の確立とそれに基づいた代表的な事例のデータベースを作成し、各地域における生物多様性条約に基づく保護地域作業計画の推進を図り、COP10開催国として成果について国際的にも積極的にアピールする。

【一般競争入札・総合評価方式】

A(財)国立公園協会
4.1百万円

東アジアにおける保護地域パートナーシップの状況、世界の保護地域に関するデータベース事業の運用状況等について現況を把握し、既存保護地域情報システムの分析と課題の抽出を行い、今後のパートナーシップ構築に向けた全体像の検討を行った。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかにつ
いて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。使
 途と費目の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.(財)国立公園協会			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	アジア保護地域パートナーシップ 構築事業費	4.1			
計		4	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0